

法学部 Global Programmes

アクティブ・ラーニング海外プログラム (SALP)

多文化主義・人権・市民社会 (シドニー)

▼ Sydney Active Learning Programme (SALP)

秋学期の事前授業と春期休暇中の海外研修をあわせて受講し、アクティブ・ラーニングを通じて多文化主義、人権、市民社会の諸課題について学ぶプログラムです。具体的には「先住民の権利」「難民・移民」「ジェンダーと性的多様性」の3つの分野を扱います。

事前授業では、日本とオーストラリアの事例を中心に各自がリサーチを行いながら基礎知識を学びます。春期休暇中のシドニー研修ではニューサウスウェールズ大学を拠点に、NGO/NPO等を訪問するフィールドワークや、大学での専門家の講義やワークショップを通じて知見を深め、オーストラリアの現状を理解します。最終週に学びの成果を発表する機会を設けます。事前授業、海外研修ともに学びや発表は主に英語で行います。



▼事前授業

秋学期 (14週) 水曜5限 (+週一回のサブゼミあり)

▼海外研修 (シドニー)

2021年3月1日 (月) ~ 3月14日 (日) (予定)

*新型コロナウイルス感染症に係る海外情勢によっては、海外渡航を中止しオンラインによる授業で代替する可能性があります。

▼研修先

ニューサウスウェールズ大学
(University of New South Wales: UNSW他)

▼過去の海外研修内容 (例)

UNSW他の大学での専門家による講義 / ワークショップ
オーストラリアの先住民のコミュニティ訪問
移民・難民への言語支援プログラムやアート・プロジェクトの見学
マルディ・グラ・パレード (性的少数者支援のパレード) 見学 など
*上記以外にフィールドワークとしてNPO・NGO訪問等も行います

▼海外研修参加費用

30~35万円を予定 (往復航空運賃、宿泊費等含む)(各種奨学金に申請可)

▼応募条件

上記の活動が可能な程度の英語力を有すること。(TOEIC 550点以上が目安です。)海外への渡航経験を有することが望ましい。

オンラインガイダンス

6月26日 (金) 12:35~13:15

7月1日 (水) 12:35~13:15

応募受付期間

2020年6月25日 (木)

~7月10日 (金) 17:00まで

ガイダンス詳細・募集要項・エントリー

manaba

法学部独自グローバルプログラム内
コンテンツ→アクティブ
ラーニングプログラム



▼Participants' Voices 参加学生の声

Kana Oikawa

2018年度参加 – 法律学科 (現3年生)

私は、先住民のエンパワメントについて学びました。どのように彼らが独自のコミュニティを守り、また市民社会と共生しているのかについて興味を持ち、先住民と地域住民による早朝ボクシングプログラムに参加したり、彼らと直接話したりすることで、体験的に学ぶことができました。

SALPの経験から、自らテーマを設定して現地調査をする楽しみを知り、2年次では国際インターンシップとFLP国際協力を履修しました。また、外務省主催国際問題プレゼンコンテストに出場した際には、SALPで学んだ多文化共生を活かし外務大臣賞を受賞しました。SALPによって自分の興味や関心が大きく広がったと感じています。



Fuyuki Ikeda

2018年度参加 - 政治学科 (現3年生)

サセックス大学(英)へ留学 (2年次)

SALPでは、難民が経済的貢献をなしえるために、市民社会は何ができるかをテーマに学びました。シドニーでは、難民の起業支援を行う団体を訪れ、難民が社会に貢献できる可能性について考えました。

SALPは私に海外で学ぶことへの学術的な興味を与えてくれました。この経験から、人権の大切さを強く実感し、それが他の諸問題にどれだけ結びついていくかということに関心を持ちました。そして、2年次はサセックス大学(英)に留学し、様々な制度の面から、人権について学びました。



Hinako Komamura

2017年度参加 – 国際企業関係法学科

(現 お茶の水女子大学大学院)

私は外国人家事労働者の労働環境をテーマに学びました。SALPではテーマ設定が自由で、興味を持ったことについて主体的に学ぶことができます。約半年かけてじっくりと考えを深めることができ、実りの多い経験でした。SALPに参加してからそれまでは見えていなかった人権問題や社会の動きに関心を持ち、自分の興味にも気がつくことができました。

現在は、大学院でフェミニズムについて学んでいます。SALPに参加したおかげで自分の視点や考えの深さは大きく変化し、自分が学びたいと思えることを見つけられたと感じています。



Riho Ishizuka

2017年度参加 – 法律学科

(現 武蔵野市役所職員)

LGBTIQを取り巻く環境の勉強がしたいと思い、SALPに参加しました。日本で同性婚を可能にするにはどうしたらよいかということテーマに学びを深め、シドニーでは、LGBTIQの人々にとってのSafe Placeを作り出すことの重要性を実感しました。

生活に一番身近な場所で、より多くの人々にSafe Placeを作り出すことに、自らが積極的に関わりたいと思い、現在は武蔵野市役所で働いています。SALPのメンバーとはプログラム終了後も交流があり、お互いの将来の選択にも良い影響を与えています。



▼担当教員からのメッセージ：

私たちは、それぞれの社会で多様性と人権をどうサポートするかに関心を持ち、学ぶ意欲のある学生を歓迎します。様々な現場にいる多様な人々の声を聴き、そこでの幅広い取り組みの詳細を学ぶことで、どうしたら多様な集団や個人が協働できるのか、多文化社会を作り上げていくために自分はどこに立ちどのような役割を担えるのか、ともに考えていきましょう。

法学部事務室

Mike Nix mikenix1@tamacc.chuo-u.ac.jp
長島佐恵子 s-naga@tamacc.chuo-u.ac.jp

西亮太 nomorelines8@gmail.com
野沢恵美子 enozawa@tamacc.chuo-u.ac.jp

プログラムHP：<https://sites.google.com/site/divhrprog/home>